相馬市内全小中学校へ二宮尊徳文庫

遠藤功一くん（昭 36 卒）が、相馬市内の全小中学校等に二宮尊徳にまつわる図書を贈ったという記事が目に入ってきた。同級生なので嬉しくなった。近くにいても最近ご無沙汰している。

私たちは、相高生当時、県内で初の鉄筋コンクリートのモダン風な校舎に、途中から入った。「金のとりかごにスズメ」と言われた頃である。当時の「金のとりかご」はすでに無く、スズメたちの外見は後期高齢となったが、気持ちの時計の針は、一瞬にして 60 年前に戻るものだ。

2020年（令和2年）7月5日（日曜日）

福島民報

「二宮尊徳文庫」活用を

相馬の小中学校に550冊

相馬市の元中村一小校長遠藤功一さん(七)は、同市内の全小中学校十三校と市教委に、江戸時代の農政家・二宮尊徳（金次郎）にまつわる図書合わせて約五百五十冊を寄贈した。小中学校各校には書架も贈った。市では各校に贈られた図書を「二宮尊徳文庫」として活用する。

遠藤さんは二〇〇三（平成十五）年三月に同校校長を最後に退職した。現在の相馬市を含む相馬藩が、かつての大飢饉（ききん）を二宮尊徳の教えである「報徳仕法」によって乗り越えた歴史を基に、「東日本大震災などからの復興へ歩む市内の子どもが報徳仕法への理解を深め、自身の生き方に生かして力強く前進してほしい」と寄贈を申し出た。

三日は中村一小で贈呈式が行われた。遠藤さんが「本から得た知識は人間を豊かにする。贈った図書を活用して立派な人になってほしい」と述べた。

午来勝顕校長のあいさつに続き、図書委員会委員長の寺島虎太郎君（六年）が「図書などを通じて（報徳仕法の）四つの教えをさらに深く心に刻み、よりよい生活につなげたい」と、お礼の言葉を述べた。式には福地憲司市教育長らが同席した。

元中村一小校長 遠藤功一さん

「二宮尊徳文庫」を寄贈した遠藤さん（前列右）

（7 月 14 日 村山記）